

平成28年11月17日(木)、保育所(園)・認定こども園等の園長(所長)を対象として、第5回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講義「地域の子どもと保護者が地域で共に育ちあう人権保育 ～子ども・子育て支援新制度の下で～」

講師 大阪大谷大学 准教授 井上 寿美 氏

井上先生には、「子ども・子育て支援新制度」を「子どもの人権」の視点でわかりやすく読み解いていただきながら、心を育てる人権保育について御講義いただきました。

【主な内容】

○「子ども・子育て支援新制度」において

- ・地域ニーズに基づいた学校教育・保育・子育て支援を提供
- ・新たな財源確保による量の拡充・質の向上
乳幼児期の教育や地域の子育て支援の充実に向け、制度が整えられ、財政面での改善も進んできました。



○新制度を「子どもの人権」の視点から読み解く

- ・地域の子どもが地域で共に育つことができる
- ・保護者の就労状況が変化しても、子どもの生活の場は変わらない
乳幼児期から、人との関わりの中で、人に対する愛情や信頼感、人権を大切にする心を育てることが大切です。
～「心が育てば力は付いてくる、力が育っても心は育たない」～



○保育者として自己肯定感を育むために

- ・子どもや保護者を「理解しよう」と思うのではなく、「教えてもらう」という姿勢を大切にする
子どもであっても、大人であっても、周りの人が自分の気持ちに耳を傾け、ありのままを受けとめてくれていると実感する経験が必要です。さらに、子どもや保護者の力を信じ、保育者は「何ができるか」を自ら問い続けることが大切です。

【グループ協議】

各園の人権保育の取組について、情報交換を行いました。他園の実践に学んだり、講義から学んだことを再確認したりすることができ、充実した協議となりました。

【参加者の感想より】

- 「できる」「できない」ではかりがちだった保育を反省した。心を育てるということをもう一度基点にして、園でも話していきたい。
- 心を育てる人権保育は、園として大きな課題。保護者に対するかわりについても、今日の講演を聞いて、寄り添う姿勢、話を聞く姿勢の大切さをあらためて学んだ。
- 自分自身が育ってきた中に持ってしまった「固定観念」に気づかせていただいた。
- ありのままの姿を受け入れ、その子が将来生き抜いていくための力を育む保育体制を作りたい。
- 自己肯定感が相互信頼感につながる。子どもはもちろんだが、職員、保護者も自己肯定感を持つようにしたい。そのためには、自分から行動していかなばと強く感じた。

【懇談会のまとめ】

講義の中で、ありのままの自分がまるごと受けとめられる経験をすることの大切さを教えていただきました。自分の気持ちに耳を傾けてくれるよき仲間や大人の存在は、自己肯定感を育み、相互の信頼感を高めることにつながるのではないのでしょうか。

今年は、園長(所長)対象の懇談会でした。今回の講義内容を園に持ち帰り、園内研修をしていたくなど、園経営や保育実践に生かしていただきたいと思えます。